

週番活動について

三年 進藤 優子（昭和三九年度）

私達三年生は去年の三学期に先輩から週番の仕事を受けついだ。その当時は河かおもしろ半分の週番勤務をやっていたが、いざ自分達が三年生になると週番の仕事ほどつらい思いをするものがなかった。登校時間、下階段の歩き方、全てみんなの模範なのである。今考えてみると「よくやってこれたなあ」としみじみ思う。しかし勤務時間におくれてきたりしてなかなか朝のスタートがまずかった。だから一年の計は元旦にありと同じように「一日の計は朝にあり」という具合でまずい活動の時もあった。しかし、今考えてみるとそれも楽しい思い出の一つです。

二年生む三学期から週番という仕事に実際にたずさわるわけですが、朝の勤務時間には絶対おくれないうようにしてください。そして「自分がやらなければ誰がやる。」という精神を持って積極的に週番活動をやってください。学校生活において、また共同生活において支配者がどんなに貴重な存在であるか、週番勤務を終わろうとする今ははつきりとわかったような気がする。ただ私が二年生のみなさんにいいたいこと

は、「自分かやらなければ誰がやる」という信念を持って週番というつらい仕事にたずさわっていただけだと思います。苦しい時、いやな思いをした時このことばを思い出して、いやなことをした人だけをにくまず、自分をもふりかえてみて、意味のある週番活動にしてください。私たちが卒業してからも担任の先生を中心に、がっちりスクラムを組んで立派な学級、学校を作りあげることが希望します。

後輩のみなさんにはおせじでもよい先輩とはいえないとは思いますが、私たちも私たちがなによりよき学級、学校というものをめざして努力してきましたつもりです。校章の七つの誓い（協同、明朗、希望、責任、自律、健康、勉強）を忘れずに二歩でなくても、一歩でも前進する学校をめざしてしっかりがんばってください。そして、校風に新しいページを自分達の手で、しっかりと書きたくしてください。最後に、「自分がやらなければ誰がやる。」ということと、雑草のように自由にのびのびと、そして、踏まれても、踏まれても、なお立ちなおろうとする根性を持つことを希望します。悪い先輩であればあるほど、後輩にこんなことをいいたいのです。